2025 年 2 月 16 日

『Sport Japan』07-08 月号（№56）から学ぶ

林　但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。
表記、公益社団法人　日本スポーツ協会機関誌で２ケ月に１回発行されています。21 年 07-08 月号は「JSPO は、なぜ＜プレーヤーズセンタード＞を提唱するのか」」の特集号です。

私の視点にて気づいたこと・参考になる点を２点記載します。

１そこにある「だれも取り残さない」という視点

「SDGs」とスポーツ指導者　・・・・・日本ユニセフ協会

スポーツで子どもたちが学ぶ、フェアプレーやルール・他者の尊重などの価値は SDGs のゴール４の「質の高い教育」の目指す姿と大いに関連します。また、暴力や暴言のないスポーツ指導は、子どもたちにあらゆる暴力をなくすというターゲット 16－2 の達成に繋がります。そして何より、誰でもが参加できる開かれたスポーツ環境を築くことは「だれも取り残さない」・・・・まさに SDGs の根幹にかかわる部分です。

SDGs は国や企業だけが頑張っても実現しません。スポーツ推進委員は子どもや大人など私たちは色々な人と関わっています。長期的な視点に立ってまずは子ともからスポーツのすばらしさや社会に出た時にスポーツを通して得たことが大きな力になるように伝えていきたいと 16 日西部カップ児童サッカー大会を見ていて強く感じました。

2　JSPO は、なぜ　「プレーヤーズセンタード」を提唱するか

PART４「**夢を抱く子どもたちを支えたい**」　トライアスロン元日本代表　武友綾巳氏

武友さんは**子供たちが自由に発言できる、自分で考え行動し成し遂げるように**もされている。先月末伺った桜小学校 6 年の先生と同じような考え方であると読んでいて感じました。紹介したいのはいくつかあるが、ここでは「**失敗することで学べる機会を失わない**」プレイヤーズスタンダードで子どもたちを支える、その実現には親の存在も欠かせません。

時々学校開放で利用する団体を見ていると、保護者の方も熱心で子どもたちを、大事にされています。しかし、大事がゆえに失敗・エラーの種までも拾ってしまうことを見たことがあります。状況やタイミングを見て“今日は失敗してもよいから、声をかけずに”見守ってくださいという指導者の声、「ナイス」と思うことがありました。子どもたちは試行錯誤しています。信じて任せてもらえ、だんだん上手になっているのを何度も見ています。武友さんもたとえ失敗したとしても怖がらずに行動する。そのことで“引き出しが増える”と感じておられるとの事。

今月号では２つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて（行動）みませんか？
＊本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。是非一緒に取り組んでいきましょう！